

# SSKR I.L.EXPRESS

全国自立生活センター協議会 (JIL)

Japan Council on Independent Living Centers

〒192-0046 東京都八王子市明神町4-11-11-1F

TEL 042-660-7747 FAX 042-660-7746

E-mail: jil@d1.dion.ne.jp URL <http://www.j-il.jp/>



# 東北関東大震災 障害者救援本部特集号

## 自立情報発信基地

### 東北関東大震災障害者救援本部

代表 中西 正司

このたびの一連の東日本大震災に際しまして、亡くなられた多数の方々のご冥福を祈念し謹んでお悔やみ申しあげますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申しあげます。

この地震、津波の天災に加え、更に追い討ちをかける原発事故災害により、正に未曾有の大災害に見舞われた東日本一体において、その渦中にいる方々はちゃんと避難できているのか、避難所で暮らしているのか、私たちは同じ障害のある仲間として、また支援者として心が痛む日々を過ごしています。

#### 主旨

私たちは今回の大災害で被災された方々に対して、早急にかつ継続的に必要な支援をすべく、多方面の支援団体の協力のもと「東北関東大震災障害者救援本部」を3月17日に立ち上げました。そして、その各団体の支援経験やネットワークを活かし有効な活動を展開していこうと考えています。家の倒壊等で避難生活をしている方のニーズ、自宅に留まることをよぎなくされた方のニーズ、障害を持っている方のニーズなど、この多様なニーズに私たちはできる限りの支援に全力を尽くしていこうと考えています。そして、この救援本部の活動が東北地方のインクルーシブな社会の実現の一端を担うことを願っています。被災地の方々の思いを聞いていく中で、「救援本部が今できることは」ということに直面していますが、私たちが今できることは被災地の方々の意向を尊重し、それに寄り添っていくことであると考えます。

#### 救援本部のこれまでの活動

救援本部は東日本大震災直後に設立されました。

震災直後は、現地の方々と連絡がとれない状況にありましたが、通信網が復旧すると被災地から必要な物資の依頼が続々と届きました。大震災から約1ヶ月間は、物資の調達や発送に追われる日々が続き、その間にいわき市の障害者団体の方々の避難の受入れ、ボランティア活動が出来る方の募集と調整、被災地での情報収集、各避難所での聞き取り調査など、できる限りのことをやってきました。その後、宮城県・福島県・岩手県の順番に「被災地障がい者センター」が立ち上がり、その各センターの後方支援が活動の中心に変わっていきました。

現在、被災地へ物資の流通が整ったかのように見えますが、まだ被災地では手に入りにくいものがたくさんあります。

#### 皆様からの支援募金の使い方

救援本部設置から約2ヶ月間、関係団体、HPを見られた方などからたくさんの支援募金を頂きました。その支援募金は、各被災障がい者センターの活動資金、被災者が必要とする物資の購入や移送費などに使わせて頂いております。救援本部では今後も引き続き物資の提供をすると共に、今後は、ヘルパー研修講座の開催、被災障害者のエンパワメントのための当事者ボランティア・ピアカウンセラーの派遣事業なども計画中です。今後とも皆様からの域の長いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

これまでに購入した物資を一部ですがご紹介させていただきます。

○軽自動車、移送用リフトカー、電動アシスト自転車、ポータブルトイレ、使い捨て介護シート、インバーター、布団一式、折りたたみ式ベット、紙オムツ、etc

# 被災地みやぎの2か月

CIL たすけっと  
被災地障がい者センターみやぎ  
及川 智

はじめに、東日本大震災で犠牲になられた方々に対し心よりお悔みを申し上げますとともに、被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げます。

3月11日14時46分。東北から関東にかけて魔物じみた津波を伴って震度7、M9.0の巨大地震が襲った。当時たすけっと事務所で会議中で、揺れはじめ少しづつ揺れが強くなるにつれ、机にもぐったり車いす上で頭を抱えることしか出来なかった。

指定避難所へ向かい、6時間ほど経ったのち、避難者でいっぱいになった体育館では横になるスペースもなく、トイレにも行けなくなったため、水が出てストーブがあったたすけっとの事務所に戻り、10数人で震災当日の夜を明かした。最初の2日は、事務所を避難所兼支援拠点として、食料、生活用品を事務所に集めて自分達の安全確保と安否確認に終始した。

その後は、JIL、ゆめ風基金、日本財団などをはじめ、全国各地の団体・個人の皆様から頂いた支援物資をもとに・障がい者の方への物資提供を始めた。思いつく限りの方法でチラシをまき、広報をした。今も続く物資提供件数は200件を越す。この時に全国各地でかき集めてくださったガソリンが本当にありがたかった。改めて心から感謝申し上げます。この物資提供が現在に及ぶ活動の基礎である。

今回の震災の特徴は何と言っても津波である。津波の被害がない内陸部はほぼライフラインが復旧し、商店も大半通常に戻っている。そうした二分されたような状況がある。現在の「被災地障がい者センターみやぎ」の活動も沿岸部への調査とニーズへの対応が中心だ。また、被災した障がい者の拠点(作業所、通所施設など)の1日も早い再開のため、そして新たな障がい者の支援拠点を立ち上げるために必要な救援金を届けることだ。こちらは6つの案件に救援金をお届けすることができている。これからは社会基盤をどう作っていくか、という議論も必要で、そこには運動が必要だと思っている。それをどうやって盛

り上げていくか。少しづつ考え、行動していきたい。

これは「ゆめごよみ風だより」にも書かせていただいたのだが、宮城県は、人・物・金が圧倒的に仙台市に偏っている状況がある。自立生活センターも当たすけっとが唯一である。16年の活動の中で広がっていない。社会資源も乏しいと言わざるを得ないが、その理由の一つは運動団体にあるとみに思う。街、県をもう一度作り上げていくことになるが、その一端を担えるようにしたい。連日ボランティアを含むセンターのスタッフは懸命に支援活動にあたっただいている。そのおひとりの「さら地と復興は紙一重」というつぶやきが耳を離れない。さら地となった場所には、風土や歴史とともに無限の可能性がある。どんな心を入れ、復興していくのか。長い取り組みになる。

最後に、全国各地から物心両面にわたってご支援いただいておりますこと、心から御礼申し上げます。



# 被災地障がい者支援センターふくしま 活動報告

白石 清春



2011年3月11日マグネチュード9.0という未曾有の大地震が東北・関東を襲いました。その地震から引き起こされた大津波によって岩手、宮城、福島の前部はことごとく壊滅されて、27000名以上の死者と行方不明者を出しました。それに伴い、福島県では大津波の影響で、第一原子力発電所が事故を起こし、目に見えない放射線が福島県内の人、農作物、家畜、自然を汚染しています。原子力発電所の事故の終息がいつになるやら予想がつかない状況なので、福島県の復興のスタートラインがみえずにいます。

支援センターふくしまでは多くのボランティアさんたちの力を借りて、福島県内の大部分の避難所を回って、障がいをお持ちの方の安否確認と困りごとを聞いてニーズ調査を行ってきました。そして、障がい者の避難所での過酷な生活の全容が浮き彫りになりました。

現在、福島県でも一番悲惨な状況におかれている南相馬市の事業所に対して、支援センター福島では支援物資とボランティアを送り込む支援活動を続けています。

今後の支援センターふくしまの活動としては、郡山に避難所兼サロンを設置して、南相馬市や川俣町、川内村、葛尾村、その他の地域から避難してきた被災障がい者を受け入れる体制を確立していきます。

現在、郡山養護学校の卒業生名簿のデータ整理に着手していて、データが打ち終わった段階で養護学校の同窓会の役員の方と卒業生の名簿データを確認しあってから、福島県の浜通りと中通りに住んでいる養護学校卒業生の家を一軒一軒訪問していく活動を展開していきたいと考えています。

福島県は、何回も述べますが、原発事故の問題で行政も民間も右往左往しています。私たちもこのまま郡山に居続けていいものやら、判断に苦慮しています。私はもう歳なので放射線はあまり問題にはならないでしょうが、若い人たちや子供さんにとっては大変な問題になるかも知れません。原発からどんどん放射線が漏れだしている期間が長く続くのであれば、郡山の若者たちを遠いところに避難させることも考えていかなくなるかも知れません。

このような福島県の状況ですが、いつも笑いを絶やさずに（笑い顔でいると免疫力が上がります。免疫力がアップすると放射線で壊れた細胞のDNAを修復するという）、きっといつかは福島県の復興をやり遂げるという強い意志で支援センターふくしまの活動を続けていく所存ですので、よろしく願いいたします。

毎日新聞

2011.4.20



東日本大震災障害者救援本部

### 長期の支援態勢必要

障害者団体の全国自立生活センター協議会（JIL）などが設立した東日本大震災障害者救援本部（東京都）が、仙台市と福島県郡山市の2カ所を拠点に、障害者の被災



状況を確認し、相談や支援物資を届ける活動を行っている。中西正司代表（JIL常任委員）は「震災の犠牲者や行方不明者の多くは逃げ遅れた高齢者や障害者。まだ余震や津波のおそれもあり、長期の支援態勢を作っていく必要がある」と語る。学校の体育館や公民館

が使用されている避難所は、廊下と部屋との間の段差や、トイレの使いにくさなど障害者にとって安全な場所とはいえない。「障害が重い人ほど、家族とともに取り残される」（中西さん）といい、被災地の巡回では、在宅の障害者がいることが前提だ。介助が必要な人がいれば、障害者支援の知識を持ったボランティアを派遣。また、地元のヘルパーらが従来行ってきた家庭への巡回のため必要なガソリンを、現地で提供する支援も行ってきた。

大震災発生から1カ月以上が過ぎ、「避難した親戚の家に行けなくなったり」など行き場を失いかねない障害者もいるという。障害者が自立する際には共同作業所などの再開も必要だが、地域によっては難しいケースもある。災害弱者の支援は今後も重要だ。中西さんは「現地に骨をうずめるくらいの気持ちで活動ができる人、団体に協力してほしい」と話す。支援物資の提供やボランティアへの参加などを、「被災地障がい者センターみやぎ」（仙台市）のメール（cil.busshi@gmail.com）を受け付けている。【最上聡】

ボランティア募集中!!

#### 被災地障害者支援センター

福島県・郡山 JDF 被災地障がい者支援センターふくしま  
〒963-8025 福島県郡山市桑野1丁目-5-17 深谷ビルB棟101号  
電話 024-925-2428 FAX 024-925-2429  
e-mail: shienfukushima2011green@yahoo.co.jp

宮城県・仙台 被災地障がい者センターみやぎ  
〒982-0011 宮城県仙台市太白区長町1-6-1  
電話 080-3303-3130 080-3303-3131 FAX 022-248-6016  
e-mail: cil.busshi@gmail.com

岩手県・盛岡 被災地障がい者センターいわて  
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮1-3-20 光立ビル  
電話/FAX 019-635-6226 email: hisai\_syougai@yahoo.co.jp

#### 連絡先

東北関東大震災障害者救援本部  
〒192-0046 東京都八王子市明神町4-11-11-1F JIL内  
TEL 042-631-6620  
FAX 042-660-7746 e-mail 9enhonbu@gmail.com

お知り合いが避難生活で困っているなどどんなことでもご相談下さい。